

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部 局 名	保健福祉部
	課 名	子ども福祉課
	係 名	保育係
	記 入 者	電話(内線) 142

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	公立保育所施設整備事業				(3) 事業の 優先度	B		
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市				
① 事業の区分	事務事業				(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)				
② 施策コード	13203		(総合計画掲載ページ 53 ページ)			会計区分	一般会計				
基本目標(政策)	1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)					財源区分	市単独				
基本施策	1-3安心して子育てできる児童福祉の充実(児童福祉)					予算科目	款 3		項 2		目 4
施策	②保育環境の充実					予算書上の	公立保育所施設整備事業				
施策内容	3教育・保育施設の整備					事業名称	(予算書 91 ページに掲載)				
(5) 事業期間						(8) 事務分類		自治事務			
開始			年	月から		根拠法令					
終了			年	月まで (力年)							

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
公立保育所に入所している児童及びその保護者	安心安全な保育環境の確保
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
・城西保育所空調設備改修工事(平成28年度) ・城西保育所物置設置(平成29年度) ・山川保育所給水管布設替え工事(平成29年度) ・山川保育所トイレ改修(平成30年度) ・ " テラス改修, サッシ交換(平成31年度) ・上山川保育所和式トイレの洋式化(平成29年度) ・ " (PAS)柱上高圧負荷開閉器取替(平成30年度) ・ " 給食室トイレ手洗い場の改修工事(平成31年度) ・ " 園舎の内装工事(壁塗り替え)(平成31年度)	・老朽化により空調設備の動作が正常でなく、夏場において保育に支障をきたす。 ・家庭トイレの洋式化が進み、和式トイレで用をたせない児童が増えているとともに、老朽化により悪臭等に悩まされている。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
公立2保育所(山川保育所・上山川保育所)の老朽化。この2保育所について、改修工事をしながら使い続けるのか、新設するのか考え始める時期が来ている。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映							
実施計画													
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）							
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度			
（１）事務事業費の コスト	事業費	委託料		746									
		工事請負費		9,774		9,500							
	合計		10,520		9,500								
	財源	国庫支出金（千円）											
		県支出金（千円）											
		地方債（千円）		7,800		7,200							
		その他特定財源（千円）											
		一般財源（千円）		2,720		2,300							
		合計（千円）		10,520		9,500							
補助・起債制度名		公立保育所施設整備事業債		社会福祉施設整備事業債									

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率			%	%		
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率			%	%		

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	
	手段の妥当性	A	妥当である	
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	
有効性	成果の向上	A	上がっている	
進捗度	事業の進捗	A	順調である	

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

今後も保育所が老朽化しているため様々な修繕が必要となる。一方、入所者数については、将来的に少子化の影響もあり減少していくことが予想されている。このまま老朽化した施設で対応していくのか、入所者数減少と施設改修費の増額を見込んで統合新設の話を進めていくのか検討に入る時期が来ている。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

諸事情を考慮しながら公立保育所の修繕を実施していく。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	統合・新事業への展開	老朽化した公立保育所の建て替えや統合を考慮する必要がある。
(3) 最終評価 企画調整会議において 評価を行う		上記評価のとおり。 事業の方向性については、課内で再検討し、意思統一を図りたい。